

## 教主様ご巡教 四国信徒大会 理事長挨拶

「教主様ご巡教 四国信徒大会」、誠にありがとうございます。

教主様、本日は私どものためにありがとうございます。

今教団が直面している大きな混乱の中にあって、教主様には、日々東奔西走のご公務にも拘らず、本日遠方ご出座賜りましたこと、皆さまと共に心より感謝申し上げたいと存じます。

また、本日は、教主夫人であります岡田まゆみ様と、教主補佐の岡田真明様にご臨席いただいておりますので、ここでご紹介させていただきます。

奥様、教主補佐、恐れ入ります、どうぞお立ちくださいませ。

本日9月9日は、真明様とマミ奥様のご息女「〇〇様」が、お健やかに満1歳のお誕生日を迎えられました。

皆さまと共に、盛大な拍手をもってお祝い申し上げたいと存じます。

ありがとうございます。

そして、本日は、いつのめ教区からも、教主様のご教導を求めて止まない方々を代表して、いつのめ教区・副代表の川谷 豊<sup>かわたにゆたか</sup>先生と西日本地区本部・本部長の古津照也<sup>ふるつてるや</sup>先生をはじめ、200名近い信徒の方々がご参加になっています。

いつのめ教区の皆さま、ようこそご参拝くださいました。どうぞお立ちくださいませ。

ありがとうございます。

私どもは、いつのめ教区との連携・協働のもとにあって、たいへん大きな勇気と学びをいただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

はじめに、今年は、西日本豪雨をはじめ、度重なる地震や台風の到来など、自然災害が頻発しております。つい先日も、北海道でたいへん大きな地震が発生いたしました。

先程のご参拝を通して、こうした災害に関わられたすべての方々と共に、赦され、救われ、生きたものとして天国に迎え入れてくださいますように、明主様と共にあるメシアの御名にあって、主神に委ねさせていただきました。

さて、世界救世教では、東方之光(M O A)といつのめ教団小林執行部、そして、その庇護のもとにある聖地直結の会の人たちが、包括責任役員会と称する架空の組織の名のもとに、教主様と岡田宗家の方々に対して、また、教

主様と共にみ教えの神髓を求めて歩む ① 之光教団といづのめ教区に対して、教団から追放しようとする執拗な攻撃に今もって明け暮れています。

私どもは、こうした動きに対する対応は勿論のこと、教主様のご教導に与り、この度の教団の混乱の中に間違いなく存在する神様のみ旨を真摯に求め、受け止め、自らの信仰の革正に向かうことを何よりも大切にしていまいりました。

私は、教主様が、主神に心からお仕えになった明主様のみ心を求めて止まないお気持ちをもって、私どもを“明主様の真実”へとお導きくださっているものと強く感じさせていただいております。

そして、教主様がご教導くださる「全く新しい信仰」について、これ以上の世界救世教の信仰があるだろうか、これ以上明主様を景仰申し上げる道があるだろうかと思わせていただき、心からの感謝をもって学びと実践に努めさせていただいております。

また、先日、教主補佐・真明様は、教主様のご名代としてドイツにご出向になりました。

そして、フランクフルト教会の「月次祭」をはじめ、世界各地から参集した青年信徒の集いにご出席になり、“神様の子どもとして新しく生まれるために”というテーマのもとお話をされたと伺っております。

① 之光教団からも3名の専従者と信徒が参加を許され、貴重な学びと体験をいただくことが出来ました。

教主補佐、誠にありがとうございました。

私は、全世界のすべての世界救世教信徒が、様々な状況のもとで、明主様から「全く新しい信仰」の大きな養いをお受けしているものと受け止めさせていただきました。

私どもは、今、明主様が「大転換」「180度の転換」とみ教えくださっている、その大きな信仰の革正の中に身を置かせていただいております。

教主様は、先般の「祖霊大祭」において、

私は、明主様が最晩年に、“メシヤとして新しくお生まれになった、というご事蹟をお示しになったことを思いますと、地上天国建設、人類救済を始め、明主様がお説きになったすべてに、私どもをご自身の子たるメシヤとして新しく生まれさせるという主神のご意志が貫いていると思わざるを得ません。

主神は、メシヤの御名をもって全創造をお始めになり、今も一瞬たりとも

滞ることのない創造のみ業をなさっているのですから、私どもがメシアの御名を心に思い、その御名をお唱えさせていただくことは、主神をお讃えするための、大切な礼儀であると思います。

と、このようにお示しく下さいました。

私は、ここに、“明主様の真実”に導かれる道があるものと信じ、「メシアの御名」に結ばれたものとしての千載一遇の道を一途に進ませていただきたいと存じます。

そして、皆さまとご一緒に、「会う、聞く、浄霊」を中心に“想念の御用”の実践に努め、天国に立ち返らせていただく道をひたむきに歩ませていただくことが、①之光教団の使命・役割であると思わせていただいております。

私どもは、このように努めさせていただくことが、「全く新しい信仰」の道をお与えいただき、「大光明」や「メシヤの御神」の御名をいち早くお受けしたものであると信じて進ませていただきたいと存じます。

私どもは、このような大いなる信仰の目覚めに導かれる中、来月8日に本年の「秋季大祭」を迎えることとなります。

本年の「秋季大祭」は、いつのめ教区と東方之光教区の方々とご一緒に教主様のご出座を仰ぎ、「インテックス大阪」において5,000名規模の大祭として執り行わせていただきます。

私どもは、私ども一人ひとりをご自身の子どもとして迎え入れようとしてくださっている主神が主宰される「秋季大祭」に、そしてみ教えの神髓をお伝えくださる教主様が祭主を務められる「秋季大祭」に、大いなる喜びと感謝をもって臨ませていただきましょう。

本日は、只今より教主様のお言葉を賜り、その後、教主様と教主補佐に「質疑応答」の貴重な機会をお許しいただいております。

本日のすべてのご教導を心の中心に真剣にお受けし、教主様とひとつ心で、明主様を模範として、主神にお仕えさせていただく本当の信仰へと、大いなる希望をもって出発させていただきましょう。

教主様のお出ましの前に大切な時間を賜りましたこと、感謝申し上げます。  
ありがとうございました。